

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2024 年	3 月	6 日	(記入者) 三谷 尚彦	
取材参加者	石井	井本	西田	三谷	本井
	横山				
取材対象先	奈良市：白毫寺の本堂				

所在地	奈良市白毫寺町392番地				
所有者(取材対応者)名	白毫寺 ***住職	***	連絡先 0742-26-3392		
	住職姉様(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など： 白毫寺				
市町村指定文化財	彫刻	軀	名称(指定年月日)		
	建造物	1 棟	白毫寺本堂 1994(平成6)年3月2日 指定		
文化財指定理由	江戸時代初めの特徴がある白毫寺再興の建物だが、奈良時代以来の伝統である、柱間三間の身舎(もや)の四方に庇をまわす「三間四面」の形式に従う、復古的な形式を用いている南都の寺院本堂の一例として貴重である。				
文化財の状況					
防火対策	設備・対策・点検・通知方法など			記入者の感想	
	火災報知器や消火器等は各所に設置されている。報知器の発報装置等は夜間も十分周囲に聞こえる。毎年1月に消防署との点検も行っている。			多くの重要文化財も保有しており(現在は1983(昭和58)年完成の宝蔵に安置)、寺全体の防犯防火対策は整っている。	
獣害対策	被害の有無、対策など			記入者の感想	
	高円山麓の自然豊かな地にあるのでアライグマ、イタチなど出没。堂内には侵入しないが外部の柱にアライグマのかじった痕跡がある。夏にはコウモリが縁側の天井部にいることもある。			場所柄いたし方のない所もあり監視して被害の拡大を防ぐしかない。	
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	関西花の寺十八番札所で(五色椿や萩で有名)、重文も多数ある奈良市内でも著名な寺なので観光収入や補助金も期待できるが、お話を伺うと有志の方々の協力が寺の維持・整備に大きな役割があるとのこと。以前は「保勝会」という檀家とは別の協力があったが解散している。今は主に町内の人たちが中心となり掃除や年行事などに尽力している。大正時代には多宝塔を売却して仏像や本堂の修理にあてたこともあり、保存・継承の苦労の歴史がある。現在は奈良市の文化財課とも相談しながら修理や整備をしているとの事。2017年～2020年は本堂を修理した。				
取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)					
奈良市や地域の方との連携で修復や管理がなされているのは心強い。境内の庭園や“石仏の道”も人々の協力で1997(平成9)年に整備された。しかし本堂は部分修理が行われているが全体に傷みは激しい。奈良市内の寺社でも比較的人気の処で、仏像などの文化財のほか花や奈良盆地が一望できる展望景観も素晴らしく、静かなたたずまいを求めて訪れる人も多いと思うが、修復などにかかる資金集めは大変だろう。協力者の世代交代もある中でこのまま維持されるのを祈りたい。					

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024 年	3 月	6 日	(記入者) 三谷 尚彦	
取材参加者	石井	井本	西田	三谷	本井
	横山				
取材対象先	奈良市：白毫寺の本堂				

(内部の写真撮影は不許可)

文化財指定名：白毫寺本堂

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	  
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">東面</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">南西面</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">北西面</div>

文化財 (角度を変えて、写真)	気になる部位の写真
 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">中央三間部戸</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">向拝部</div>	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">アライグマの付けた傷跡</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">基壇部分</div>

文化財の由緒などを記入

本堂は江戸時代初期の再建となる。桁行五間梁行五間、寄棟造、本瓦葺で、亀腹上に立ち正面中央に一間の向拝を設ける。周囲に一間の吹放しの広縁を回し竿縁天井を張り、向拝は斗栱、蟬股を組む。正面中央三間に部戸を吊り両脇間には板戸を入れる。内部は中央を内陣とし須弥壇を置き、両側面を脇陣とする。内陣には格天井を張り須弥壇上部のみ一段折り上げる。「三間四面」の古式な形式で全体に簡素な造りで復古調の形態をとどめる。

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

天智天皇の皇子の志貴皇子の離宮を寺としたと伝えられるが諸説あり定かではない。鎌倉時代中期に西大寺の観尊によって再興されて以後その末寺となった。弟子の道照が宋より一切経を持ち帰り転読を行って一切経寺とも呼ばれた。戦国の戦火で焼失衰退したが江戸時代初め空慶により再興された。明治の廃仏毀釈後境内は荒れたが、大正時代から徐々に修復され、1983(昭和58)年に宝蔵が完成し重文の仏像を収納、1994(平成6)年本堂が奈良市指定文化財となり整備が進んでいる。